

NIE 実践報告書

教科横断型新聞活用を通じて世界につながる指導を

千代田区立九段中等教育学校

主任教諭 朝倉 直美 主任教諭 黄 俐嘉 主任教諭 石上 新太郎 教諭 渡辺 圭太

1 はじめに

本校は千代田区にある、中高6年間一貫教育を行う中等教育学校である。【至大至剛】の精神の下、教育目標として、「豊かな心 知の創造 未来貢献」を掲げ、『知性、感性を磨き、豊かな創造力を培う』『心身を鍛え、自主自律の精神を養う』『主体的に社会に貢献する意欲と態度を醸成する』教育を行い、次代を担う生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばさせ、豊かな人間性を培い、日本や世界の問題解決に積極的に取り組み、他者と協調、協働して、世界のリーダーとして、未来に貢献できる未来志向の責任ある人材育成に取り組んでいる。

本校生徒は全体的に穏やかで学習に対しても意欲的に取り組むが、前期課程の生徒は上級学校への受験がないために進路意識を持ちにくいところがある。また、国語や読書や作文に対して苦手意識を持つ割合は比較的低いが、積極的に語彙を増やして社会や世界の新たな情報を得ようとする意識を高める必要性を感じた。そして、幅広い知識と豊富な語彙を得ると共に、多様なものの見方・考え方に触れるため、新聞を活用することが有用であると考えた。

上記の理由により、NIE の活動を取り入れたいと考え、令和5（2023）年度に実践校としての活動を始めた。昨年度は新聞に親しみ新聞を通して社会や世界との関わりを意識する活動をおこない、2年目となる今年度は新聞を通して社会や世界とのつながりを深める

活動を実践した。3年生で学年として取り組むこととし、国語・英語・総合の時間とホームルーム活動において実践を行った。

2 NIE の取り組み

① 新聞コーナーの整備

昨年に引き続き学年フロアに新聞コーナーを設けて毎日の朝刊1面を掲示した。また、テーブルとイスをその前に配置し環境を整えた。生徒に対してのアンケートの「普段、国内や外国のさまざまな情報（ニュース）をどのような方法で入手していますか？」という質問への回答によると、新聞によって情報を入手している生徒は昨年は全体の7%程度であったが、本年は30%となった。自宅で新聞を取っている家庭は昨年からあまり変化していないため、この新聞コーナーが活用されたと考えられる。

② 新聞日直の導入

他校の実践を学び、今年度から新聞日直を導入した。各クラスの日直が新聞記事を紹介する取り組みである。事前に記事を選び、その記事の要約や意見・感想をA4プリント1枚にまとめておき、それを帰りのホームルームで紹介する。発表後は教室後方の掲示板に掲示し、1ヶ月分まとまったところで新聞係がファイルにとじるという流れにした。

開始当初は感想が短く稚拙なものも見られたが、慣れてくると深い考察も見られるようになった。また、発表を聞いた生徒が記事に興味を持ち調べることも多くなった。

③ 総合 「九段 Project Based Learning」

今年度の総合では「九段 Project Based Learning (KPBL)」という課題解決型学習を実施した。興味・関心に応じて「人口・教育・まち・公正・はたらく・環境・食糧・文化」の8つの「視点」グループに分かれた生徒達が、年に3回のタームで活動した。1ターム目は千代田区の課題解決、2ターム目は東京都の課題解決、3ターム目は場所を問わない課題解決を目指した。情報収集の段階で新聞を用いて検討をおこない、また、前述の新聞日直の活動でも「視点」を意識した。授業者としては、新聞を用いることにより、現在の活動と社会や世界が繋がっている意識を持たせるよう留意して指導にあたった。

④ 国語の授業内での新聞づくり

産経新聞社「かんたん号外くん」を利用していただいた学習を継続している。一昨年度は1年国語で「故事成語新聞」、昨年度は2年国語で「俳句新聞」を作成した。今年度は3年国語で『『走れメロス』新聞』、4年(高校1年)言語文化で『『児のそら寝』新聞』を作成する授業を行った。

『『走れメロス』新聞』『『児のそら寝』新聞』は、共に文学作品を読解して学んだことをまとめた新聞である。単元の最初に授業者より「記者として取材するような気持ちで読解を進めるように」と告げ、一斉授業にて読解を終えた後、生徒それぞれがワークシートに学んだことや伝えたいことなどをまとめた上で号外作成に取り組んだ。

新聞にまとめるという目的があるため、主体的に読解に取り組むことができたようであり、記者として文学の世界に入り込むことを楽しんでいただようである。

この取り組みを知った教員により1年国語での『『竹取物語』新聞』作成にもつながった。

⑤ 英語・総合 オーストラリア海外研修旅行事前・事後指導してのはがき新聞作成

事前学習では、滞在先がオーストラリア(ブリスベン)であることから、事前学習では「オーストラリア」を主題に、現地情報や観光地、オーストラリアの基本情報について調べさせた。事後学習では「現地での生活」を主題に作成させた。例えば、現地でのホームステイ体験や学校生活である。

ミニ新聞は公益財団法人理想科学財団から無償提供していただいた用紙を使用した。また、作成した新聞は、提供していただいた「透明ポケット」を模造紙に貼り付け、その中に作成した事前と事後両方の新聞を入れさせた。

展示用パネルに模造紙を縦に貼り、一面に20人分ずつ貼れるように寸法を測り、調整した。事前学習で作成した新聞は、自学年フロアに一定期間置いた後、文化祭で展示した。<文化祭の展示の様子>



事後学習で作成した新聞は、自学年フロアの掲示後に、下級生である中学2年生の学年フロアに展示した。

事後学習の新聞の作成上の工夫として、来年度同じ体験をする後輩へ、現地の学校生活やホストファミリーとのかかわり紹介を生徒にまとめさせた。相手の立場を考えられる生

徒に育ってほしいという教員団の思いから、「他者意識」を高めるため、後輩の2年生が分かるように、相手の知っている語彙や文法を用いて新聞を作成させた。

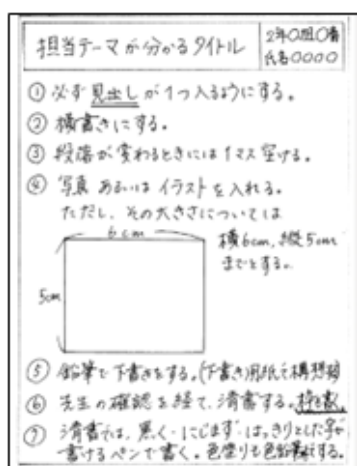
作成するコツは「1人1テーマの一覧表」、「書き方見本」「下書き用紙」「主題に即した書籍の準備」、「短時間で作成させる」である。

本校の1学級は40名である。そのため、担当番号（主題）と出席番号を一致させて、1人1主題となるように工夫した。他学級にいる同じ出席番号の生徒同士が、情報交換することもできる。

図書館司書の協力を得て、区内図書館から関連書籍を取り寄せた。人数分の本を揃えられないことを予想し、生徒には地元の図書館からも本を借りてくるように指示を出した。

担当教員の想定している出来栄えにできるだけ近づくように、「書き方の見本」を配布した。できるだけ簡潔に、分かりやすく生徒に伝えられるようにまとめた。本番とそっくりな紙を担当教員が準備し、配置を考えさせた。

＜書き方の見本＞

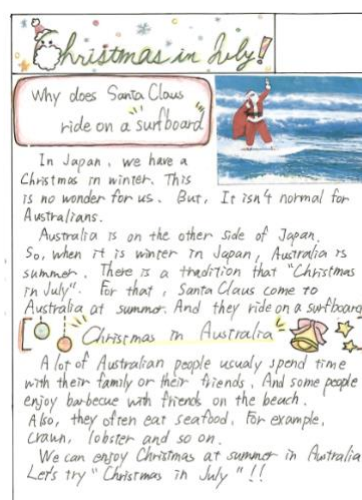


下書きを書かせたら、英語の授業で4人1組となって15分程度で、文法・語彙の誤りを自分たちで直させた上で、「総合の時間」を

用いて、清書に取り組みさせた。

新聞を使った学習を通して、簡潔に情報をまとめ、読み手への配慮を意識して作成することができた。今後も生徒の言語活動の充実を図ることも含め、学年行事での活用だけでなく、様々な場面で活用していきたい。また、他学年にも本活動を積極的に紹介し、新聞作りの輪を広げていきたい。

＜事前学習の新聞＞



⑥ 英語 確かな情報をもとに、よりよい社会づくりを考える

中学3年生の英語科の教科書に「チョコレートの歴史とフェアトレード」について学ぶ単元がある。

美味しいチョコレートを食べられる背景には、不当な低価格での取引に生産農家が苦しんでいることや、児童労働に依存する現実がある。

教科書には、チョコレート産業には暗黒面があると記されているが、実感がわきづらい。そのため、「フェアトレード」や「児童労働」に関する新聞記事の切り抜きを集め、生徒たちに配布した。

また、それらの新聞記事も踏まえて、区内にある高級チョコレートブランドのスタッフを招聘した。実際に、チョコレート企業の方からフェアトレードへの取り組みや、カカオ生産国での教育支援についての情報を提供していただいた。併せて、企業の方から産地が異なるチョコレートを2種類提供していただき、生徒たちは美味しいチョコレートの背景のネガティブな一面について考えながら味わった。

新聞記事の情報に加えて、講話による「確かな情報」をもとに、生徒が社会を身近に感じられるようにすることができた。

<講話の様子>



3 成果と課題

2025年1月に本校3年生を対象として実施したアンケートによると、「新聞づくりに意欲的に取り組んだ」85%「新聞づくりに意欲的に取り組んだ」84%であり、活動への主体性が見

られた。「学んだ・成長したこと」としては「日本の政治や、世界情勢に興味を湧いた」「世界のニュースに対して興味を持つことができた」

「インターネットで見る情報は、私に関心のあるものばかりだったが、活動を通して国内外の情報に触れることが出来た」という回答があり、世界へと繋がる視野の拡大に繋がったと感じている。

また、「印象に残っている活動」として「故事成語新聞」「『走れメロス』新聞」「俳句新聞」を挙げている生徒が多数おり、「(『走れメロス』の)文章中で使われている表現が少し難しく、理解できるまで読み直すのは大変なときもありましたが、充実していて楽しかったです」

「新聞を書く時に自分の立場を決め、題材についての新聞をルールに気を付けながら書いていくことが面白かったです」という感想もあった。文学の世界、表現の世界に深く入り込み、それを楽しむ契機となったことが分かり、大変喜ばしく感じている。

その他にも、「文章を書く力が上がった」「自分の意見をよく考えるようになった」「文章を要約するコツがわかった」「英語力の向上」などの回答もあり、言語能力や文章構成能力等が向上し、それを本人達も実感していたことが分かる。

2年間の取り組みは終了したが、来年度も引き続き教科学習や日常生活の一部として新聞を活用する取り組みを継続したい。今後は新聞を交流や自己理解、進路学習にも生かしていきたいと考えている。生徒達一人ひとりが、NIEの経験や学びを楽しみ、変化の激しい社会において、将来はリーダーとして他者と協働して問題解決に立ち向かっていける人材となるよう、願っている。